

平成22年度 大町町立大町小学校 学校評価表

1 学校教育目標	大磨 智誠(おおま ちせい) ～ 知・徳・体を大きく磨き、人格の完成をめざす ～
----------	--

2 学校経営ビジョン	<p>(めざす学校像) ・素直なあいさつのできる学校 ・児童と教師が共に明朗で活気に満ちた学校 ・ふるさと学習、福祉活動やボランティア活動が活発な学校 ・自主性に富み元気のある学校 (めざす教師像) ○使命感 ・教職に誇りと自信を持つ教師 ・自己研修と指導実践に励む教師 ・心の触れ合いを大切にして児童と共に学ぶ教師 ○信頼感 ・心身ともに健康で、人間性豊かな教師 ・児童の能力を伸ばし、個性を生かす教師 ・常に児童と共に働き、同僚と協働する教師 ・教育公務員としての高い倫理観を持ち、児童、保護者、地域に信頼される教師 (めざす児童像) ・自ら意欲的に学習する児童 ・礼儀正しく、思いやりの心を持つ児童 ・責任感のある健康でたくましい児童 ・一人ひとりが全力を出し、共に働き創造していく児童</p>
------------	--

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
<p>○学力の向上 ○心の教育の推進 ○特別支援教育の充実 ○生徒指導の充実 ○健康・体づくり ○小中一貫教育に向けた取組の推進 ○安全能力・危機回避能力の向上 ○小学校低学年の学習環境改善の充実</p>	<p>【成果】 評価項目、評価の観点、具体的目標、具体的方策と全職員の共通理解のもとに実施した。また、評価や成果と課題についても全職員で検討し、学校評価に関する関心が高まってきた。生徒指導面・特別支援教育面については充分機能し、特別支援教育では、いい結果を得ることができた。中学校との連携は平成23年度の一貫校を目指してしっかり取り組むことができた。</p> <p>【課題】 ① 学力の向上 国語より算数の落ち込みが大きい。算数の指導法の研究に力を入れ学力の向上を図る。 ② 心の教育と生徒指導の連携・強化 家庭への啓発はもちろん児童本人にも心の教育を充実させることにより、本人の力を高める指導を強化する。 ③ 関係機関との連携強化 児童を取り巻く課題は、学校単独では解決したい課題が多くなっている。各種関係機関との連携をさらに強化する必要がある。特別支援コーディネーター・教育相談担当者を中心に学校内の組織力を高め、学校が組織体として他機関との連携にあたる。 ④ 小中連携 平成23年度の一貫校開校という目標がある。これまでの連携を整理・強化し、さらに共通理解を深めながら小中連携教育を推進する。</p>

5 総括表								
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価及びその理由	学校関係者評価委員会から		
						学校関係者 評価委員 の評価	意見や提言など	
学校運営	○学校経営方針	学校経営ビジョン(めざす子ども像)の周知	学校教育活動に目指す子ども像を意識して臨む児童を90%以上にする。	・全校朝会の折、めざす子ども像を学期毎に指導する。 ・児童像を校内に掲示し、児童の意識付けを図る。	B	教育目標について、学校便りや校内掲示等で知らせ、全校や学年、学級で児童に話してきたため、概ね達成できたといえる。しかしながら、児童には言葉の意味が難しいことや、めざす児童像や、くらしのめあて等いろいろとあり、指導者も明確に示せなかったため、常に意識して取り組むまでには至っていないと考えられる。	B	○今後とも大町っ子を心からご指導をお願いします。 ○事ある毎に、児童に暗記するぐらい覚えさせる。校内掲示(学年毎に)
	○安全管理・危機管理	児童の交通安全能力・危機回避能力の向上	防犯ブザーの所持率、自転車のヘルメット着用率、子ども110番の家の周知率を85%以上にする。	・防犯ブザー点検を隔週に、ヘルメット着用調査を1、2学期に実施する。 ・児童には全体での指導を行ったときには、必ず各学級、学年での指導を行う。 ・保護者への理解と協力を得るために所持・着用の大切さや、所持率・着用率のお知らせの学校便りを年に2回は発行する。 ・各種避難訓練の実施 ・保護者や地域と連携し、危険箇所点検やパトロールを行う。	B	交通教室や避難訓練等の実施により、児童の安全に対する意識が高まってきている。しかし、ヘルメットの着用率はまだまだで、今後指導の必要がある。	A	○登下校の際の(集団登下校を除いて)交通ルールが守られていない時があります。広がって歩いたり、飛び出したり、ヒヤットする事もあります。
教育活動	●学力の向上	大町型授業実践による分かる授業と基礎基本の徹底	国・算学力検査の結果を昨年度より向上させる。	・大町型授業の全校授業研を年4回実施する。 ・宿題を原則として、すべての学年で、毎日出す。	B	「おおむね達成している」の割合が大変多い。これは、学習状況調査での厳しい結果を受けて、朝の活動(「国語タイム」「ドリルタイム」)を見直したり、日々の授業改善を意識し始めたりしたからだと考えられる。しかし、授業の「この部分」を改善したと手ごたえを感じるほどの確に改善するまでには至っていない。	A	○授業の流れ、工夫などで理解が深まっている。 ○保護者の支えと協力が必要と思う。 ○大町型授業で、学び合うことで、自分の考えもしっかり持てるようになってと思います。自ら学ぼうとするためにもルールの周知徹底は大切ですね。
		「学習ルール」の周知徹底	学習ルールのアンケートを実施し、達成率を90%以上にする。	・すべての学年で、生活チェック表による生活チェックを毎日行う。 ・家庭での協力を得るために、学習ルールのポスターを全家庭に配布する。	B	今年度、9年間の義務教育を見通した「学習ルール」改訂を実施することはできたが、それを周知徹底・遵守させるまでに至らなかった。	B	○家庭でも壁に貼っていくらかよくなっている。

●心の教育	いじめや差別のない風土づくり	人権を意識させ、差別をしない、差別を許さない児童を育てる。 ・平和の大切さ、命の大切さを理解するように促す。 ・職員の人権・同和教育に対	・「大町っ子こころの詩」を選定し、推奨する。 ・人権や平和について考える週間を設定する。 ・講師招聘による人権・同和教育研修会を開く。	B	日々の取り組みにより、少しずつ人権・同和教育への意識が高まってきているが、まだ児童や保護者への啓発が必要である。	B	○かかれたいじめや差別を見つけるのは難しい。 ○日々の取り組みを通して、地域の意識を高める必要があると思う。
	道徳教育の推進と道徳の授業の充実	・全学級、道徳の時間を保護者に公開する。地域への道徳授業の公開も行う。 ・各学年の年間指導計画を立てる。	・授業公開の年間予定を作る。 ・指導計画作成のための枠組み・手順を提示する。	B	教職員と児童は80%以上が概ね達成していると考えているが、児童の実態を見ると意識を高めるための支援が必要である。	A	○参観日で、全学級道徳の授業の実施はともよい。
	人権・同和教育の視点に立った学級づくり	・互いのよさを認め合い、助け合う児童を育てる。 ・身近な問題に気づき、連携して問題を解決していこうとする児童を育てる。	・エンカウンターなどを取り入れ、児童の心を開かせていく。 ・人権や平和、命に関する授業を全学級で年間1回以上行う。	B	評価が高い割に実態は伴っていないように感じる。今後も意識を高めるための支援が必要である。	A	○仲間づくりのゲームや遊びをより多く実施する。
○特別支援教育	特別支援教育の充実	特別支援が必要な児童を全職員が把握する。	・校内支援委員会を実施し、支援状況を確認する。 ・特別支援教育コーディネーターと教育相談担当者が協力し、支援が必要な児童の在籍する学級の支援が適宜できるようにする。 ・個別の支援計画・指導計画を作成し、全職員がそれに従って支援・指導できるようにする。	B	・1,2学期に、適宜校内支援委員会を行い、改善に向けての協力支援状況を確認する。 ・小中合同で支援が必要な児童についてカウンセラーを講師に招いて研修会ができた。 ・毎月1回生徒指導・教育相談連絡会を行い、支援が必要な児童について話し合いをもっている。	A	○生活支援員の配置はともよい。(手のかかる子への対応) ○今後も実態に応じた支援を願う。
○生徒指導	生徒理解の推進と居場所づくり	児童理解において早期の問題発見、対応に努める。	・生徒指導連絡会を開催し全職員が共通理解し連携して指導する。 ・毎月末に「今月のこころ」のアンケートを行う。	B	ほとんどの児童が楽しく生活できているが、規範意識がやや低い。今後も、生徒指導上の問題点や各学級の気になる児童を出し合い全職員の共通理解のもと指導・支援を図っていきたい。	A	○教育相談の充実、養護の先生も協力していく。 ○心のアンケートで、子供の小さな悩み、不安がみつかるというですね。
	「生活のルール」の周知徹底	生活ルールアンケートを実施し、達成率を90%以上にする。	・生活ルールのポスターを全家庭にも配布し、連携して指導する。 ・学期毎に「生活ルールのチェック週間」を設け「生活ルール」の徹底を図る。	B	概ね達成しているとの意識が高いが、できていない児童が2割程いる。「生活ルール」の周知徹底が図られていない。	A	○家庭内に掲示して、親子でチェック徹底していく。 ○家庭や地域と同じ視点ですすめていくことが重要と思う。
●健康・体力づくり	体づくりの推進	外遊びの好きな児童を70パーセント以上にする。	・外遊びの奨励 ・学級用のボールや長縄などを配布する。 ・大町タイムの実施 ・なわとび大会の実施	A	児童が外で元気よく遊べるように、学級用のボールや長縄などを配布することができた。また、大町タイムと縄跳び大会も実施することができ、外で遊ぼうとする機会も提供できた。	A	○健康づくり、体力づくりは外に出て遊ぶことが必要。 ○外で元気に遊ぶ姿が見られます。 ○地域にもっと安心して遊べる場所があるといいのですが・・・
	保健・安全指導の充実	自分の心や体の健康に関心を持ち、大切にしている児童を90パーセント以上にする。	内科検診の結果を児童(保護者)に伝え、治療するよう指導する。 歯を大切にしている週間や目の愛護デーなどを集会や放送などでアピールする。	B	学校からの治療勧告の配布の際に、なぜ治療や予防が必要なのかということを、学級指導等で徹底することができなかった。 健康に関する放送は児童はよく聞き、インフルエンザの時期には、窓がよく開いていた。	A	○保健便り、理解が深められた。 ○心身ともに健康な生活づくりを地域町内の大人が意識することが何より必要と思う。
	食育指導の推進	準備、食べ方、後始末など給食時の指導を徹底する。 栄養教諭と担任の連携により食育についての指導を年間を通して計画的に行う。	・給食時間において担任や給食主任、栄養教諭と連携し、準備、食べ方、後始末などの指導を行う。 ・栄養教諭・担任が連携し、学級活動等において指導を行う。	A	地域の結果からも食の大切さのアピールは良くできている。しかし、マナーという点での指導が必要。	A	○食育だよりは効果がある。

○ 小中一貫教育に向けた取組の推進	キャリア教育を中核とした教育活動の推進	各教科、領域を通して4領域、8スキルを育成する。	・付けさせたい力、育てたい力を共有し、カリキュラムを作成し実践する。	B	校内研究において、講師を招いてキャリア教育についての考え方などの研修を行ったり、全員がキャリアの視点を取り入れて授業を行ったことで、職員のキャリア教育の意識が高まったと考えられる。	B	○講師招聘等でより研修を深めていく。
	児童生徒の交流の推進	小中間で児童生徒を交流する機会を設けて、親睦の強化と教育活動の一層の充実を図る。	・運動会や文化祭に相互参加をする。 ・授業の乗り入れを行って子どもの意欲を引き上げていく。	B	あいさつ運動やVS活動をはじめ、小中の児童交流の機会を設けたことで、交流が深まった。保護者の「おおむね達成」のポイントが70%程度にとどまっており、児童生徒の交流を推進していることを発信する必要がある。	B	○あいさつ運動や行事等への参加でよかった。
	家庭・地域との連携の推進	9年間を見通した、学力の向上と心の教育の取り組みを学校だよりやホームページで学期に1回以上は知らせる。	先ずは学校で取り組めることを推進する。その後、家庭や地域でも取り組んでいきたいことを呼びかけていく。	B	学校だよりは月1回の配布で、ホームページは週1回の定期的更新で主な学校行事の情報を発信することができた。	B	○なぜ小中一貫なのか連携の必要性が理解されていない。○学校側は大変な準備と計画・打ち合わせの時間が必要と思うので、作業（地域の方）ができる分、学校側からの地域や家庭に要望をどしどし伝えてよいと思う。 ○協力が必要な時は、教育委員会を通じてでも、地域に呼びかけてください。
● 小学校低学年の学習環境の改善充実	基本的な生活習慣及び学習習慣の育成	「時間を守る」「学習の準備をする」「話を最後まで聞く」の達成率を90%にする。	・学習の準備ができていない児童へは個別指導をする。 ・校内低学年指導委員会を開催し、児童の実態の変化に対応した指導を行う。	B	日々、繰り返して指導を行っているので、できるようになっていることも多い。しかし、身についているとは判断しがたい実態もある。また、個人差もあり、その子に合わせた声かけも必要である。	B	○夕食を家族一緒に、勉強している時は、親も一緒に声かけしたり、できばえをほめる。

●: 佐賀県内共通評価項目、○: 本校独自評価項目

6 総合評価
<ul style="list-style-type: none"> ・食育指導の推進や保健・安全指導の充実、栄養教諭や養護教諭と担任との連絡、連携で効果的な指導や保護者や地域への便りの発行など、効果的な取り組みができた。 ・学力の向上では、大町型の授業は定着してきたが、やまびこタイムのあり方等検討し、さらに充実した授業づくりを目指したい。 ・人権を意識させる様々な取り組みができ、児童の人権への意識が高まってきているが、まだまだ全児童には広まっているとは言えない。今後も心の教育には力を入れていく必要がある。

7 次年度への課題・改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校として、円滑な学校運営を行うため、運営機構小中一本化の推進や9年間を見通したキャリア教育カリキュラムの研究が必要である。 ・基本的な生活習慣の定着については、アンケートの結果は、肯定的は77%であったが、「生活ルール」の周知徹底は十分できていないので、小中一貫した取組や家庭の協力を得ながら工夫していく必要がある。 ・集団への適応に困り感を持つ児童が見られる。QUTテストを活用して早期に個に応じた対策を立て、教育相談とスクールカウンセラーと連携して、良好な人間関係作りを図りたい。 ・「学習のルール」を守っていると肯定的に答えた児童は83%であるが、家庭学習の習慣化がきちんとできていない児童もいるので、習慣化を図る手立ての工夫をし改善を図りたい。

○先生方の大変さが分かります。どうぞ今後ともよろしく願います。
○評価だけに終わらず、成果、今後の課題として努力されていることに感心しました。
○学校・児童・保護者が、一体となって、取り組んでいるのはすばらしい。
○昨年の研修成果の発表会もすばらしく、校長先生を始め、先生方的一致団結協力も見事です。
○小中一貫教育については、まだまだPR不足で、理解が十分深まっていないようである。説明会、講演会等では、保護者は勿論、教育関係者（地教委）、区長、分館長などへも参加を呼びかけて欲しい。